

やまなし

2011.9.30

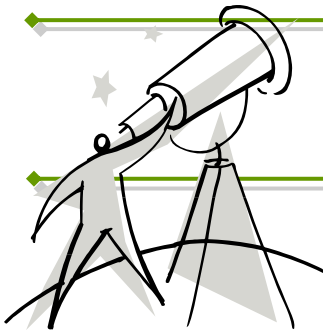
vol.9

no. **1**

contents

- 2 肝心なことは目には見えないんだよ。
- 4 利用者の声
- 5 学生にすすめる本
- 6 図書館統計
- 7 図書館トピックス
 - テーマ展示 「もう一度読みたい絵本」開催中〔本館〕
 - 新聞コーナー・リフレッシュコーナーをリニューアル!!〔医学分館〕
 - 「医中誌 Web ver. 5 & EndNote ガイダンス」を開催〔医学分館〕
- 8 今後のイベント紹介

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library



肝心なことは目には見えないんだよ。

スガイ センリ

山梨大学附属図書館長 須貝 千里

本年四月一日に山梨大学附属図書館長に就任いたしました須貝千里です。これから二年間、図書館長の任を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。私は教育人間科学部国語教育講座に所属し、国語教育関係の授業を担当しております。

この機会に、学生の皆さんに言葉にかかわる私のこだわりを述べさせていただきたいと思います。

佐藤雅彦さんの『プチ哲学』という本の中に「ケロちゃん危機一髪」という作品があります。

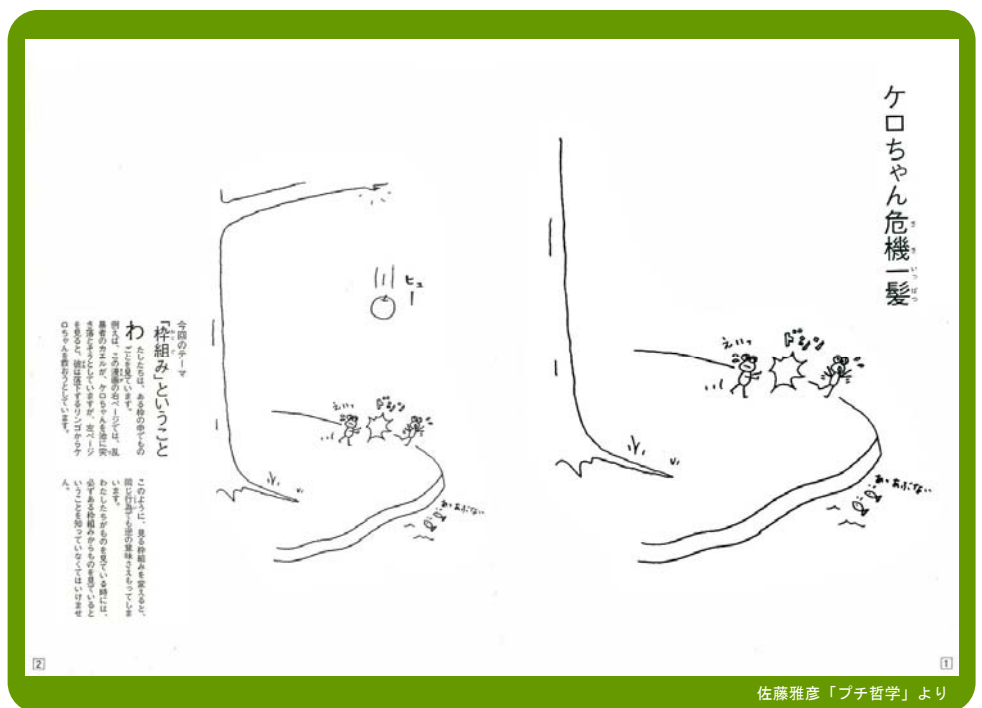
右側の絵を見ますと、「えいっ」と押している大きなカエルがいます。小さなカエルが水辺に押されています。押している方を仮に「ゴリちゃん」とか名付けておきますと、押されているのは「ケロちゃん」です。ゴリちゃんはケロちゃんを水の中に突き落とそうとしています。魚は「あっあぶない」と言っています。魚が二匹、だから「オットット」です。多くの人が「いじめ」「暴力」という言葉によって、この事態を理解するでしょう。

しかし、この絵の場合には、左側のもう一つの絵の方を見ると、木の上からリンゴが落ちてきて、ゴリちゃんはケロちゃんを助けているんだということが分かります。だから、魚が二匹、「オットット」だったのです。

右側の絵だけではこういうことはなかなか思いつかないでしょう。（ただし、何ゆえリンゴは落ちるのか、さらなる謎がそこにはありますが、……。）

とりあえずこう言うことができるでしょう。

佐藤さんは、二つの絵を対置することによって、いかに人間のものの見方・考え方が文化、既存の認識の枠組みに縛られているかを暴き出している、と。このことは万事に通じる問題ですね。



佐藤雅彦「プチ哲学」より

もう一つ、村上春樹さんの小説「青が消える」を取り上げます。

一九九九年の十二月三十一日の大晦日の夜、この新しい「ミレニウム」（千年紀）の直前の夜に、「僕」がアイロンをかけていると、シャツの青い線が消えてしまいました。どうも世界中から青が、「青」という色が消えたらしいのです。青が「青」である、ブルーが「ブルー」である、このことが成り立つのは、人々が無意識のうちにそういうことを前提にしていることによります。「青」は対象そのものを表しているわけではないのです。したがって、「青が消える」という事態は文化、既存の認識の崩壊ということになります。「僕」以外は、そもそも青が消えたこと

自体を問題にしていない、関心もないようです。

「僕」は少し前に喧嘩別れした「ガールフレンド」に電話をしましたが、彼女はその電話を「ロクでもない電話」と言います。家を出て、地下鉄の「駅員」にも訊きます。「駅員」は「政治のことは私に聞かないでください。私はただの駅員です。」と答えます。「僕」はピカソの「青の時代」という画集を見てみようと思いました。手元にはありませんが、きっと「青」は消えてしまっているでしょう。「僕」はフランスやアメリカの国旗の「青」も消えてしまったかどうかと考えていますが、これらの「青」も消えてしまっているでしょう。最後に「僕」は「内閣総理府広報室」に電話しました。「総理大臣」の人工音声が「……岡田さん、明るい面に目を向けなさい。何かはひとつなくなったら、また新しいものをひとつ作ればいいじゃありませんか。その方が経済的だし、それが経済なんですよ、岡田さん。」と答えます。それでも「僕」は「でも、青がないんだ、と僕は小さな声で言った。そしてそれは僕が好きな色だったのだ。」と思っているのです。

この物語は一体何？

そもそも私たちの知っている「ミレニウム」の転換は、二〇〇〇年の十二月三十一日から二〇〇一年一月一日にかけてです。しかし、この作品では、一九九九年の十二月三十一日から二〇〇〇年の一月一日にかけてが「ミレニウム」の転換として問題にされています。当時、新しい「ミレニウム」はいつからかが問題にされ、二〇〇一年一月一日からとするというのが公式見解とされたようです。この小説における設定とは異なります。これ、間違え？ いや、そうではなくて、きっと、この設定によって、語り手の〈僕〉のレベルでも文化、既有的認識をめぐる問題を顕在化させているのではないのでしょうか。一般的な「ミレニウム」に対する認識とは異なる認識がこの小説では前提とされることによって、登場人

物の「僕」が直面している事態に孕まれている問題と同質の問題に語り手の〈僕〉も直面している、問題がこう展開していくように仕掛けられているのではないのでしょうか。そのことによって、語られている内容にとどまらず、〈語ること〉自体を問題化しているのです。

とすると、こう言うことができるでしょう。

ここにも「ケロちゃん危機一髪」によって暴かれている問題と同様の問題が問われる、と。この問題は「ポストモダン」をめぐる問題というように焦点化することができるでしょう。「青が消える」においては、これは〈機能としての語り〉のレベルの問題ということになり、「危機一髪」問題はさらに掘り下げられているということになります。

「肝心なことは目には見えないんだよ。」

これは「星の王子さま」(サン＝テグジュペリ)のキツネの言葉です。このキツネの言葉は「ケロちゃん危機一髪」問題にも通じておりますし、「青が消える」問題にも通じていきます。そして、この言葉は読書の極意をも語っているように、私には思われます。それは今日の高度情報化社会においては時代遅れの読書法と言われるかもしれませんが。しかし、こうした読書法は高度情報社会が高度消費社会であることに抗う、最先端の読書法なのではないのでしょうか。

こうした思索の場が私にとっての理想の図書館なのです。

紹介された本

「プチ哲学」
佐藤 雅彦 著



本館2階 新着書架
159

「青が消える」
村上 春樹 著



「村上春樹全作品
1990-2000 短編集 1」
に収録

本館2階 新着書架
918.68

「星の王子さま」
サン＝テグジュペリ 著



本館2階 一般書架 953.7
分館2階 開架図書(第二)
953

資源の宝庫である図書館

大学院医学工学総合教育部
ヒューマンヘルスケア専攻
フチタ エツコ
湊田 英津子

皆様は図書館の資源を十分に知り、活用していますか。

私は、研究を遂行する過程で、頻繁に図書館に通い、データベースの使用法や大量の文献取寄せなど図書館職員の皆様から多くの支援をしていただきました。今回は、私が活用した図書館の資源とその有用性について紹介したいと思います。

悩んだ末に学生に専念した私は、連日図書館に通い、研究論文との縁により自分の興味・関心がある、そしてこだわり続けている「認知症ケア」に関する幅広い知識とアイデアを取得しました。また、データベースとの縁により「認知症ケア」を多角的に考える視点を習得しました。その時に有益な資源となったのが、図書館の電子資料と図書館職員の皆様の支援です。電子資料の使用法は、図書館で簡便な資料を作成して下さっておりますし、個別で質問に答えていただけます。これらの資源は、研究に有効な情報が得られる第一歩となりますので、是非お勧めしたい資源です。特に、図書館職員の皆様との縁を深めることは、本学図書館での情報収集方法や図書館の活用方法を知る強力な資源です。

このように、知識やアイデアを得たい、自分の考えを深めたい・整理したい時に図書館との縁を強化することは、大変意義があると思います。是非、積極的に図書館の資源を活用して、多くの縁から自己のエンパワメントにつなげていただければと思います。



図書館と私

大学院医学工学総合教育部
生命工学専攻1年
フクシマ リサ
福嶋 里彩

私は今、大好きな本に囲まれながら毎週火曜日の夕方、図書館で働いています。幼少の頃から“本”が大好きで、大学でも図書館にお世話になっています。主に読むのは小説ですが、大学に入ってからには学科の内容に則した専門的な本、他分野に関する本なども借りるようになりました。入学当時から大学の図書館は利用していますが、特に今年に入ってからには新着図書コーナー、テーマ展示コーナーが新しく出来たり、雑誌コーナーが充実したりと、今まで以上に図書館を利用しています。

図書館の魅力はやはりたくさん本があるところです。私にとっての“本”の魅力とは、気になることや分からないことを調べることが出来ることです。

昔から何でもすぐに疑問を持つ私は「気になることがあったら辞書や本を使って自分で調べなさい。」と両親に教わってきました。今はインターネットという便利なものがある時代ですが、幼少の頃からずっと本と関わってきた私にとっては、今でも本で調べることが多いです。特に試験前には専門書を借りることが多いのですが、山梨大学の図書館には専門書が充実しています。

きっと本の魅力は他にもたくさんあって、ひとりひとりがその魅力を見つけることによって本をもっと好きになっていくのだと思います。山梨大学の図書館には魅力がいっぱいあります。これからは今まで図書館を利用しなかった人にも、是非、足を運んでほしいと思います。図書館で待ってます。





BOOK 1

品とは？

『 国家の品格 』



藤原正彦 著 新潮社

工学部 土木環境工学科

スギヤマ トシユキ
杉山 俊幸

私自身、「品」あるいは「品格」ということばが気になり始めたのは、10年ほど前からです。「上品」、「下品」、「品がない」などの言葉がよく使われています。また、「あの方は淑女ですね。」、「彼は紳士だね。」などという表現もほぼ同じ意味でよく使われています。「品とは何か?」、「自分自身には、果たして品あるいは品格といわれるようなものが備わっているのだろうか?」、「備わっていないとすると、品とは、訓練することで身につけることができるのだろうか?」、また、「子供達に品を身につけさせることは可能だろうか?」と女房と話し合う機会もこの頃から増えてきました。そうした状況の中、2005年に出版された本書は、「国家の品格」というタイトルではあるものの、人としての「品（あるいは品格）」とは何かという疑問に対して、十分なヒントを与えてくれるものでした（完全な解を得ることはできない問題かと思えますので、ヒントで十分です）。第一章「近代的合理精神の限界」、および、第二章以降のサブタイトルである「小学生に英語?」（第二章）、「真のエリートが必要」（第三章）、「情緒力は蓄積しない」（第六章）は、本書を読んで特に共感を覚えたところです。自分自身に品があるのかどうか疑問に思う学生の皆さんには是非とも一読願います。そして、品のある真のエリートが1人でも多く育つことを、そして、これが積み重なって日本が品格のある国になれることを期待しています。

304

【本館2階 新着書架】

BOOK 2

知的好奇心!

『 がん遺伝子に挑む 上下 』



ナタリー・エインジャー 著
野田洋子, 野田亮 訳
東京化学同人

医学部 生化学講座第一教室

オオツカ トシヒサ
大塚 稔久

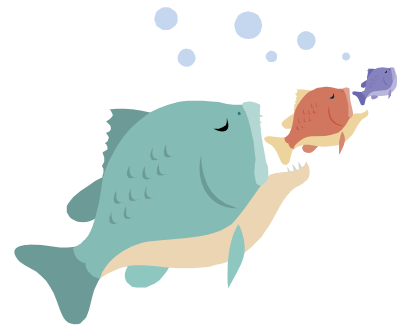
舞台はアメリカ東海岸ケンブリッジ、マサチューセッツ工科大学(MIT)。主人公は、がん遺伝子ハンター、ロバート・ワインバーグとその弟子たち。物語は、初秋のニューイングランド地方、ワインバーグ邸での一コマから始まる。

1953年にワトソンとクリックによってデオキシリボ核酸(DNA)の2重らせん構造が解明され、その後90年代前半までは、生命科学分野の遺伝子クローニング時代が続いた。中でも、その臨床的な価値から、がん遺伝子のクローニングは熾烈を極めた。本書では、世界で最初にごん遺伝子をクローニングしたワインバーグ研で、発見当時何が起こっていたのか、誰が生き残り、誰が競争に敗れていったのか、さまざまな人間模様がナタリー・エインジャーの巧みな筆致でダイナミックに描かれている。主人公の一人、当時大学院生で、がん遺伝子Neuの突然変異を見出したブロンドのコーリー・バーグマンは、世界で最も影響力のある女性生命科学研究者の一人となっている。サイエンスは、その華やかな側面ばかりが際立つきらいがあるが、本書を読むとサイエンスのある意味泥臭さを感じ取れるだろう。当時、MITホワイトヘッド研究所はScience誌上で、“世界で最もパラダイスに近い研究所”として紹介された。現在も、世界のトップランクに位置している。当のワインバーグ博士はというと、もちろん、現在でもホワイトヘッド研究所で強力ながん遺伝子研究チームを率いている。本書は20年前に出版されているが、サイエンスを志す若者には是非とも一読をお勧めしたい。多彩な頭脳が織りなす臨場感あふれるドラマが知的好奇心を刺激すること間違いなしである。

QZ202

【医学分館2階 第3閲覧室】

図書館統計(平成22年度)



(1) 開館日数・入館者数

区分	開館日数	入館者数(人)		
		学内者	学外者	合計
本館	259日	125,997	2,148	128,145
分館	284日	144,450	360	144,810

(2) 館外貸出冊数・参考調査取扱件数

区分	館外貸出冊数(冊)				参考調査
	学生	教職員	学外者	合計	件数
本館	29,996	2,457	994	33,447	2,905
分館	14,658	2,874	361	17,893	2,889

(3) 相互利用

区分	貸借(単位:冊)		文献複写(単位:件)	
	貸出	借受	受付	依頼
本館	107	447	1,798	2,022
分館	105	110	2,290	3,730
合計	212	557	4,088	5,752

(4) 子ども図書室

開館日数	125日
入室者数	1,248人
貸出券発行人数	84人
蔵書冊数	4,024冊
貸出冊数	1,984冊

2 図書館蔵書統計

(1) 図書・雑誌蔵書数(H23.3.31現在)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	389,105	141,731	530,836	8,267	3,121	11,388
分館	50,003	42,927	92,930	2,100	1,370	3,470
合計	439,108	184,658	623,766	10,367	4,491	14,858

(2) 図書・雑誌受入数(H22年度)

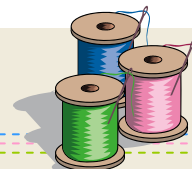
区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	7,279	793	8,072	2,401	233	2,634
分館	1,919	574	2,493	497	127	624
合計	9,198	1,367	10,565	2,898	360	3,258

3 電子ジャーナル統計

電子ジャーナル(2010/1~2010/12) fulltext ダウンロード件数

Science Direct	102,816	Science	3,443
Nature Group	11,921	Oxford University	3,396

図書館トピックス



◎ テーマ展示 「もう一度読みたい絵本」開催中 [本館]



学生の方々に新しい趣味分野への興味を持ってもらうため、期間ごとに1つのテーマを設定し、関連した図書を展示、貸出をする「テーマ展示」。今回は“絵本”を選書した「もう一度読みたい絵本」です。展示は本館2階の特別展示コーナーで行っており、すべて貸出可能です。この図書館特別企画は、今年度はこれまで、4月に第10回「新生活におくる本」、5月に第11回「図書館員が選ぶエッセイ」、7月に第12回「知的好奇心☆脳のハナシ」を開催し、今後も継続していく予定です。ぜひご利用ください。

◎ 新聞コーナー・リフレッシュコーナーをリニューアル!! [医学分館]

医学分館の玄関フロアの新聞コーナーを改修し、新たに新聞コーナーとリフレッシュコーナーを開設しました。従来の壁仕切りを撤去し、明るく、開放感のあるスペースとなっています。新聞コーナーは、新たに机と椅子を入れ、ゆっくり新聞を閲覧できるようになりました。リフレッシュコーナーは、学習の合間の休憩スペースとしてご利用いただけます。



before



リフレッシュ
コーナ

新聞コーナー



after

◎ 「医中誌Web ver. 5 & EndNoteガイダンス」を開催 [医学分館]



「医中誌Web ver. 5 & EndNoteガイダンス」風景

平成23年6月3日(金)、4月25日にver.4からver.5へバージョンアップした「医中誌Web」と、文献管理ソフト「EndNote」について、講師を招き、演習形式による利用ガイダンスを開催しました。

当日は、30名が参加し、新画面になった医中誌の新機能や、EndNoteのさまざまな機能が紹介されました。なお、医学中央雑誌Web版は、ver.5の第2段階のバージョンアップも12月中旬に行われる予定で、それまではver.4も並行して利用できます。

Library Topics



今後のイベント紹介

山梨大学附属図書館医学分館・「生と死のコーナー」関連行事 講演会



演題：自殺予防の基礎知識

講師：防衛医科大学校 高橋 祥友先生

日時：平成23年10月28日（金）18時30分～20時（終了予定）

医学分館では、平成23年度の生と死のコーナー関連行事として、防衛医科大学校の高橋祥友先生を講師に招き講演会を開催します。国内の自殺予防の第一人者である先生の講演を聴くことが出来る貴重な機会となりますので、医療関係者の方、一般の方問わず、関心のある方は是非、ご参加ください。



平成23年度山梨県・山梨大学連携事業

「子どもの本の魅力・連続講座」全5回のご案内

子ども図書室では、山梨県と山梨大学の連携事業の一環として、山梨県教育委員会と山梨大学の共同企画により、「子どもの本の魅力・連続講座」（全5回）を開催します。

参加を希望される場合は、事前に申込が必要です。

第4回 「作家が語る子どもの本の魅力」（仮）

日時：平成23年11月22日（火）午後2時～（予定）

場所：未定

主催：山梨県教育委員会・山梨大学附属図書館子ども図書室



お申し込み・お問い合わせ

山梨県教育庁 社会教育課 社会教育振興担当

〒400-8504 甲府市丸の内一丁目6-1 TEL 055-223-1771 FAX 055-223-1775

E-mail: shakaikyo@pref.yamanashi.lg.jp

終了しました。ご参加ありがとうございました。

第1回 講演「国際子ども図書館をつかってみよう」

日時：6月16日（木）午後2時～4時 / 講師：大貫 朋恵 氏

第2回 ワークショップ「読み聞かせ」

日時：7月21日（木）午後2時～4時 / 講師：斉藤 順子 氏，宮崎 さなゑ 氏

第3回 講演「調べ学習における学校図書館の活用-中学校社会科を例に-」

日時：8月11日（木）午後2時～4時 / 講師：荒井 正剛 氏

◆イベント詳細については、ポスター・パンフレット・山梨大学附属図書館ホームページ等でお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしています。

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できます。詳細については、<http://lib.yamanashi.ac.jp/>をご覧ください。本館 Tel:055-220-8066（情報サービスグループ）、医学分館 Tel:055-273-9357（医学情報グループ）にお問い合わせください。



● 表紙撮影：図書・情報課 職員
場 所：山梨大学（甲府キャンパス）

山梨大学附属図書館報 「やまなし」 第9巻第1号

2011年9月30日 発行

編集：館報編集委員会

発行：山梨大学附属図書館

〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37

TEL 055-220-8063